

訪問介護看護じゃんけんぽん金井淵

(連携型 定期巡回随時対応型訪問介護看護のご案内)

1日複数回のコマメな定期巡回訪問を中心に、
24時間いつでもつながる・駆けつける。

定期巡回サービス

ヘルパーが1日に何回か、原則として10～20分程度ご自宅に巡回訪問します。
(訪問の回数や時間は、個々のケアプランによって設定します)



- 安否確認
- 体位交換
- 服薬支援
- 移乗、移動介助
- 排泄介助
- 配膳・下膳
- 水分補給

安心の月定額です！！

随時対応サービス



オペレーターと話した後に、必要な場合はスタッフがご自宅を訪問します。
(オペレーター直通の簡易緊急通報装置を無料貸与できます)

訪問看護

医師の判断により必要な方は連携型訪問看護ステーションとの併用ができます。

- バイタル測定
- 服薬管理
- 状態観察
- 排便コントロール
- 床ずれの処置など



利用料 (本人負担の概算・自己負担1割の場合)

介護度	基本報酬 (訪問介護)	総合ケア マネジメント 体制 加算	処遇改善 加算 I	月額合計
1	5,896	1,042	597	7,535円
2	10,524	1,042	995	12,561円
3	17,473	1,042	1,592	20,107円
4	22,103	1,042	1,990	25,135円
5	26,731	1,042	2,388	30,161円

利用開始より30日間は1日34円の初期加算が追加されます。

外部の通所介護などを使った日は、左記の合計より減額があります。

訪問看護 (月額)	基本報酬 (正+准)
要介護1～4	2,997円
要介護5	3,830円

連絡先

ご自宅、事業所、病院等にご説明に伺います！！

高崎市金井淵町137-5

☎ 027-343-5552

実際のご利用例①

1日5回のトイレ誘導
3食配膳と安否確認

Aさん (70代 女性 要介護2)

- ・パーキンソン病
- ・日中独居

パーキンソン病の為にすくみ足と脊柱管狭窄症の為に歩行が不安定で車いす生活をされています。

息子さんと二人暮らしですが、日中独居。

週2回は以前から利用していたデイに通っています。

訪問介護は、トイレ誘導と食事の配膳が中心。

パーキンソン病の服薬により体調の変動が大きいので、1日のうち複数回の体調観察は重要です。

利用開始から5か月・・・

「これからも自宅で暮らしたい」というAさん。

毎日職員が訪問するのを楽しみにされています。

		月	火	水	木	金	土	日
深夜	4:00							
早朝	6:00	起床支援 トイレ誘導 配膳・配薬		起床支援・トイレ誘導 配膳・内服確認 口腔ケア デイ送り出し		下膳・片付け・内服確認 口腔ケア・バイタルチェック トイレ誘導		
	8:00							
午前	10:00	外部 デイサービス					外部 デイサービス	
	12:00			トイレ誘導・弁当温め配膳・配薬				
午後	14:00							
	16:00			下膳・片付け・内服確認・口腔ケア・トイレ誘導・足浴				
夜間	18:00							
	20:00	起床支援 弁当温め・配膳・配薬						
深夜	22:00							
	0:00							
	2:00							

現状は日中のみの頻回な訪問介護のご利用ですが、息子さんが出張の時や、緊急時など夜間訪問も対応できます。
今後、医療ニーズが増えてしまった場合は、訪問介護と訪問看護を組合せてのご利用も可能です。

実際のご利用例②

週5回の家事支援
夕方毎日の安否確認

Bさん (80代 女性 要介護2)

- ・難視、難聴
- ・独居

4年ほどまえから視力低下が著しく、難聴も進んできていますが、

「住み慣れた場所で、生活が続けられるまでは・・・」と独居生活をされています。

Bさんの想いを達成する為には、家事支援と毎日の安否確認は欠かせません。

訪問介護の他に、配食サービスや外出支援を利用し、友人の援助も受けながら在宅生活を続けています。

		月	火	水	木	金	土	日
深夜	4:00							
早朝	6:00							
	8:00			掃除・洗濯・調理・ゴミ出し (状況を見ながら週の内て分配)				
午前	10:00	テ外 イ部 サービス			テ外 イ部 サービス			
	12:00		配食	配食		配食	買物支援 受診支援	
午後	14:00							
	16:00			安否確認				
夜間	18:00							
	20:00							
深夜	22:00							
	0:00							
	2:00							

視力と聴力の低下は続きますが、自立した生活をされています。ボタン一つで事業所直通の通報システムなども活用しつつ、今後介護や安否確認の必要性が増えても、まだまだ支援の充実が可能です。
様々な社会資源をうまく活用されていますので、当事業所では支援者間ネットワークの強化にも注力してゆきます。